

[別紙] 河合塾グループのウズベキスタン共和国における取り組みについて

(1) 日本型学力検定テストモデル導入の普及・実証・ビジネス化事業（JICA「中小企業・SDGsビジネス支援事業」採択）

（株）KEIアドバンス・（株）ハピラル・テストソリューションズ

●本事業の概要と目的（事業予定期間：2021年8月から2023年11月）

日本型学力検定テストモデル（数学）の導入に関する普及・実証・ビジネス化事業の実施。

本事業後に民間ビジネスで行う学力検定テストで世界レベルの学力評価基準を検討。テスト結果を活用し、各生徒にあった効率的な学習指導を行い、学習意欲および大学進学率を向上させる。最終的には同国がめざす学力向上（2030年までにPISA数学的リテラシーで30位以内）ならびに、高度人材育成による経済発展に貢献する。

SDGsゴール「④教育、⑧経済成長、⑩格差是正」に該当する取り組みです。

※（株）KEIアドバンスはプロジェクト全体を統括。（株）ハピラル・テストソリューションズは問題作成と成績分析を担当。

【参考】：河合塾グループ本事業ご紹介ページ https://bit.ly/uzubek_kawai

●ここまでの主な実績

①学力検定テスト実施

▶第1回：2021年11月、第2回：2022年4月、第3回：2022年11月の3回実施、第4回：2023年4月の4回実施。

首都タシュケント周辺の公立・

私立学校8年生から10年生（日本の中2～高1に該当） 毎回3,600名を対象にCBT形式で数学テストを行う。

▶同国の教科書を読み込み、現地のカリキュラムに深い理解を持つ（株）ハピラル・テストソリューションズの日本人スタッフが 現地事情に合わせた問題を作成。

②成績分析と現地政府への結果報告等

▶2022年1月（第1回実施分）、2022年6月（第2回実施分）、2023年1月（第3回実施分）の3回実施。

同国の国民教育省に結果を報告。偏差値やG-P分析*を活用した詳細な分析と指導の改善点を提案し、大きな反響をいただく。 *G-P分析：各設問の選択肢について上位・中位・下位群それぞれの選択率に差があるかを検証する分析

▶現地の教員を対象としたセミナーを開催。対面とオンラインで同国内から40名以上が参加。結果分析と今後の学習指導について説明を行う。時間内では終わらず、終了後も会場外で質疑応答が行われるなど活発な意見交換がなされた。

[ウズベキスタン共和国でのプロジェクトの様様]



[昨年11月の第1回テストの様子（CBT方式）] [今年6月に行われた国民教育省への結果報告] [6月に行われた教員セミナーの様子（会場外での質疑応答）。右端が当グループスタッフ]



[昨年8月にオンラインで行われた国民教育省との覚書の交換]



[現地学校の授業風景
(タシュケント225番学校10年生)]



[現地の学校
(タシュケント225番学校)]

(2) ウズベキスタン共和国テスト専門家の河合塾グループにおける研修受け入れ

(学)河合塾、(株)KEIアドバンス、(株)ハピラル・テストソリューションズ、(株)全国試験運営センター、(株)河合出版等

2022年12月7日～16日に実施。同国の国立テストセンター（現：知識・能力評価庁）の専門家4名が来日し、河合塾グループの各法人で日本型学力検定テストや日本の大学入試制度などについて研修を受講。

[研修の様子]

